

テーマ:

やさいをそだてておいしく食べよう

愛知県
名古屋市立
高針小学校
横井先生



この活動の特徴



「凜々子」活用のポイント①

凜々子の栽培をきっかけに
家庭を巻き込んだ活動になった

「凜々子」活用のポイント②

「野菜嫌いをなくす」目標を掲げ
凜々子を活用し尽くした

活動のねらい



- 野菜の生長を見守る中でたくさんの気づきから「生命のはぐくみ」を感じる
- 身近な野菜のトマトを、友達や家族と調理することを通じ「食」への興味・関心を高める

活動の概要と流れ

対象学年 : 2年生 (72名)
実践期間 : 4月～10月

時期	学習活動
4月	定植 変化を見逃さず、その理由を考えながら生長を見守る
5月	「好き嫌いをなくそうプロジェクト」～野菜チャレンジ～ 1回目を実施
6月	「好き嫌いをなくそうプロジェクト」～野菜チャレンジ～ 2回目を実施
7月	収穫開始 夏休みは凜々子の鉢を家に持ち帰って収穫し、調理をする
8月	「好き嫌いをなくそうプロジェクト」～野菜チャレンジ～ 3回目を実施
9月	夏休みに家で食べたおいしいトマト料理を話し合う
9月・10月	レシピを作成し、保護者も参加して調理実習を行う



ここがポイント！ 取組の工夫と実践の成果

凜々子をきっかけに野菜嫌いを克服してほしい

給食に嫌いな野菜が出ると口をつぐんでしまう子ども。食べ残しを嫌って野菜料理は出さない家庭。今や食育は学校が頼みの綱となっていてしまっています。そこで、野菜を育てる生活科の単元で、育てた凜々子を親子で調理することにより、子どもたちが喜んで食べるメニューのレパートリーを増やしたり、調理の工夫を学んだりする機会を作りたいと考えました。

「どうして？」を大事にする観察活動

野菜を育てた経験のない児童が大半を占めるので、凜々子の栽培を始めるにあたり、野菜と子どもの関わりを大事にしました。苗の生長で気づいたことをワークシートに記録し続けることを通じ、「どうして？」という子どもたちの疑問を自分で追及していく姿勢が育ってきていることがうかがえるようになりました。



「やさいチャレンジ」で野菜嫌いを減らす

栄養教諭と共同で凜々子を使って好き嫌いをなくす活動にも取り組みました。

最初に、野菜の栄養や給食の調理の工夫などを話し、児童の苦手な野菜の調査を行いました。

次に、調査結果に挙げた苦手な野菜を積極的に家庭で食べる活動として「やさいチャレンジ」を実施しました。夏野菜が出回る時期に合わせて5月から3回実施。トマト、にんじん、なす、ピーマンなどの10種類の野菜が記載されたシートを配布し、食べられた野菜の数によってポイントを付与するというものです。料理のお手伝いにもポイントが付きます。この取り組みは保護者の反響が大きく、「子どもが喜ぶので作りが良かった」「料理を一緒にすることで子どもが野菜に興味をもち、積極的に食べるようになった」など、親子で食生活を振り返るきっかけづくりになったという意見が数多く寄せられました。

凜々子を使って調理をする

夏休み中に家に持ち帰って収穫した凜々子を使って、家で作ってみた料理の中から、おいしかったものを学校でも調理することにしました。保護者と一緒に、カレー、スパゲティ、パンケーキ、ゼリー、

ピザ、オムライスなどさまざまな料理を作り、親子で味わいました。



先生から一言！ 実践を通して

この活動で子どもたちの野菜を愛おしむ心が育っていったと感じました。子どもたちの感想には、自分で育てた野菜を調理して食べる楽しさを味わったことが書かれています。また、これを機会に料理の手伝いをしてみたいという子どもも多くいました。

何よりも給食を残す子どもが減り、家庭でも好き嫌いせずに野菜を食べようとしている様子がうかがえます。栄養教諭と協力して子どもの様子を見ながら、ひとつひとつ吟味して取り組んだ成果が出たと思っています。

受賞理由

凜々子の栽培をきっかけに、子どもの野菜嫌いの克服につなげ、さらには家庭を巻き込むことで親子の「食」に対する意識の変革にまで踏み込んだ、非常に内容の濃い実践です。子どもたちはこの取り組みを通じて「野菜好きになる」という一生の宝物を手にしたのではないのでしょうか？